

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	a 始業のベルとともに授業に入り、スムーズに学習に取り組めるよう努める。	ベル着を励行し、落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組むことができた。回答した生徒が90%になり、目標を達成できた。教職員のベル着に対する自己評価の結果は、「十分に取組ませることができた」が54%、「おおむね」が46%で、全職員が意識をもって指導に当たっている。	新入生オリエンテーションなどでのベル着の指導や授業での働きかけによって生徒の取り組みが向上し、今年初めて目標の90%を達成できた。一部、生徒の自己評価の結果、「あまり取組めなかった」「全く取り組むことができなかった」と考えている生徒も数名いるので、目標基準は今年度を維持して、授業の開始、終了のメリハリが失われることのないよう継続して取り組んでいく。
	b ICT機器を活用した授業を工夫して、基礎学力の充実にを図る。	興味を持って授業に参加できたと回答した生徒は84%→82%と、ほぼ横ばいで、目標の85%には及ばなかった。保護者の授業に対する満足度は92%→87%と下がったが、今年度アンケート文面から「授業が楽しいといっている」という語句を削除し、「わかるといっている」面だけにフォーカスしたことも理由として考えられる。ICT機器を活用した授業の工夫には、教職員の92%が取り組んでいる。	学習への興味を引き出そうと、ICT機器を活用した授業の工夫を進めているが、興味関心、理解度のさらなる向上には直接結び付いていない。回答結果は2～3人の生徒の自己評価によって5%前後左右されるので、達成状況を見ながらも、引き続きICT機器を活用した授業の工夫に注力したい。基礎的な学力の不十分な生徒にとって、タブレット機器を利用した学び直しは効果的で、さらに活用範囲を広げていく。今後も、少人数での指導が不可欠であり、生徒一人ひとりに合わせた授業をつくっていく必要がある。
2 生徒支援	a 交通規則の意義を理解させ遵守させる。さらにヘルメットの着用を促す。時間的な余裕をもって登校できるように家庭との連携を図る。そして全体の遅刻数減少を目指す。	昨年度（令和6年度）から重点目標を家庭との連携をしながら遅刻回数削減を図るということに、生徒の登下校時の安全を図り交通規則を遵守させることを加えた。今年度も教職員は交通規則を遵守させ遅刻回数の削減を図ることが100%であった。保護者においても89%と大きく目標を上回ることができた。しかしながら、生徒は交通規則を守り遅刻することなく登校するが82%と目標を達成することができなかった。上位学年になるほど、目標達成が難しくなっている。	生徒の回答が目標を達成しておらず、18%近くの生徒が交通規則を守り遅刻することなく登校するを心がけていなかったと回答した。高校生の登下校時の交通事故が多発し生命の危険が生じることなどから更なる交通安全に向けての意識向上に努めたい。保護者に対しても協力を要請し、連絡体制の強化を図りたい。来年度は生徒の目標指数を達成できるよう努めたい。自転車通学生に対しては令和8年度から通学時のヘルメット着用が義務づけられることにあわせ、生命の安全のために交通規則の遵守を徹底していきたい。
	b 生徒の不適切な言動に対して、速やかにその場で指導し生徒に納得させる。また、定期的にアンケート、面談を実施する。	いじめの発生を防ぐため、教職員は生徒の不適切な言動に対して速やかに指導し情報共有が重要であるということを共通理解し取り組むことができた。来年度も更なる情報共有が必要である。生徒についても他者の気持ちを理解し、不適切な言動を避けるという目標は94%から90%に若干減少したが達成した。保護者も子どもが努力している様子を家庭で確認でき、目標の数値はこちらも若干減少したが達成できている。今後も生徒の不適切な言動は許さないという共通理解を持ち指導を行っていく必要がある。	教職員の回答は、100%であった。生徒保護者共に目標を上回った。来年度も定期的にアンケートや面談を実施しながら、生徒の様子を把握し、気がかりなことがある場合は速やかに指導を行う。他者に対して不適切な言動を避けるとともに、他者の気持ちを理解し思いやりのある言動を心がけることを目標に、達成できるように工夫していきたい。保護者に対しても学校内での生徒の様子を電話連絡や保護者会などの機会を利用して積極的に伝え、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）も含めて更なる協力体制を構築していくことが必要である。
3 進路支援	a 進路に関する適性検査や講演会・ガイダンスを通して、自分の進路について考え、就労意欲が高まるよう働きかける。	行事、検査に関しては、ほぼ予定通り実施することができた。その中でも、職業別進路ガイダンスは、ここ数年で少人数での体験型講座を増やすことによって、生徒が主体的に参加する姿が多く見られるようになった。また、職業講話は、丸岡ロータリークラブの講師の方の尽力で、生徒の仕事に対する知識、意識の向上に良い影響を与えている。生徒にも好評であり、事後の感想も意欲的なものが多い。ただ生徒の回答結果は、A+Bの割合が49%で、目標を大きく下回った。	現在行っている進路行事は、基本的に継続しながら、生徒の進路、職業への意識・意欲が高まるよう改善に努めたい。その為に、まず進路希望調査を年2回とり、生徒への意識を高める。また、進学希望者に対しては、専門学校や大学からのオープンキャンパス等の案内をクラスに入れ、低学年次より参加するよう促す。就職希望者に関しては、今年度より実施した企業見学ツアーなどにより、生徒の早期意欲向上に努めたい。また、担任の協力のもと、適切な時期に生徒との面談を行い、生徒が進路を考える機会、環境を整えていきたい。また、アンケートの質問内容が、生徒にわかりづらかった可能性があるため、来年度は表現を改善する。
	b ハローワークなど関係機関と連携しながら、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	就職関係は、概ね予定通りのスケジュールで進めることができた。就職を希望する生徒に対して、担任やハローワークの協力の下、個々の生徒、保護者の希望を重視し、職場見学についてなど適切な指導を行い、全員合格した。進学に関しても、総合型などの入試制度を利用して、全員進路先を決定した。試験対策への取り組みは、A+Bの数値が昨年度の77%→本年度の86%と増加した。今後も継続して取り組みたい。	本校の生徒にとって、就職や進学が間近に迫ってから試験対策を始めても、期日までに必要な学力をつけることは難しい。1、2年次から、一般教養の基礎学力を定着させるため、授業に真面目取り組み、一般常識問題の演習に力を入れたい。同時に、就職、進学試験には面接が課される場合が多く、キャリア教育の充実および、全教職員による面接指導を継続し、生徒の知識、コミュニケーション力が向上するよう努めたい。
4 教育相談	生徒との日常的な関わりを大切にし、生徒の抱える問題の早期発見に努め、家庭、関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携により適切に問題解決を図る。	「校内で心の悩みや問題を相談できる」生徒の割合が69%から51%に大きく減少した。人との信頼関係を築くことに時間がかかる生徒、自己開示が苦手で寡黙な生徒、自分を正当化し自分の主張を聞いてもらえないことに不満を持つ生徒が増えていることに起因することが考えられる。このような生徒に対して、どのようにアプローチしていくかが課題である。日頃から生徒に声を掛け、相談しやすい関係を作ることができるよう、生徒全員を学校全体で見守る学校作りを励まなければならないと考える。JOYの時間を活用し、専門機関から講師を招聘した講演会を企画・運営した。講演を聞くだけでなく、グループワークやロールプレイングを取り入れた学習活動を来年度も継続して実施していきたい。	「担任面談週間」を複数回設け、教員の生徒理解や相談しやすい環境作りを図った。来年度も適切な時期を検討し継続した取り組みにしたい。また、問題の未然防止、深刻化防止のため、「SCによる全員面談」を2回、計画・実施することができた。誰一人取り残さない支援を目指し取り組みたい。良好な人間関係の構築、社会参加に必要な力を身に付けるための授業（JOY）は、担任と情報共有しながら、例年通り、年間を通じ計画的に実施していく。外部機関と連携し、教職員に対する校内研修（教育相談、合理的配慮が必要な生徒、特別支援教育に関する課題、通級による指導に関する内容について）を企画・運営していきたい。
5 環境衛生	身の回りの整理整頓と校内の清掃活動が習慣化するように、適切な声かけを行う。また、自己の健康管理の意識向上に取り組む。	教師からの声かけや働きかけは十分になされ、また清掃中に音楽を放送することで、今年度もほとんどの生徒が自発的に清掃に真面目に取り組んでいる状況であるが、生徒の自己評価は目標の85%に届かず80%にとどまった。昨年度の89%からは低下している。わずかではあるが自主的に自分の担当清掃場所に行かず、教師の声かけを受けて、再度取り組んでいる生徒もいる。生徒の減少により、各清掃場所の担当が一人のところも増え、また清掃場所が広範囲となり教師の目の行き届かない箇所もあった。教師一人の担当場所も広範囲になっているので、生徒一人ひとりがさらに自発的に清掃に向かうよう指導する必要がある。	生徒の特性や人間関係を担任と連携して確認の上、適切に清掃分担をし、自発的に清掃するよう促す。また、一定の期間状況を見極めて、清掃分担を変更しても良いこととし、清掃監督と連携する。生徒一人ひとりが自発的に清掃に向かうように、各清掃場所での作業内容を明確にし、清掃監督のチェック体制を維持する。また、生活環境を整える良い習慣を身につける意識の醸成に努める。家庭での生徒の取り組みが保護者から見て72%と昨年よりわずかに向上しているものの、目標の80%に届いていないので、生徒には家庭でも学校同様自発的に清掃活動、健康管理に取り組むように指導する。
6 読書支援	「ハートフルタイム」での読書活動や「図書館だより」を通して、読書に対する意欲や興味を育成する。	ハートフルタイムにおける「読書活動に真剣に取り組んでいる」生徒の回答の割合は80%であり、概ね良好だが、目標85%を下回っている。あまり取り組めていない生徒が、どの学年にも一定数いる。教員の回答は85%であり、目標を達成している。今後も担任の協力のもと、継続して行っていく。この活動が読書習慣の定着を経て、落ち着いた学校生活に繋がることを期待していきたい。	読書習慣が定着することが、生徒が豊かな社会生活を送る要因のひとつと考えている。そのために、現在の「ハートフルタイム」を継続し、更なる読書環境の工夫、読書意欲の喚起や啓発活動に取り組んでいきたい。「図書館だより」も各教室に掲示していく。